



# 鷹山宇一記念美術館友の会会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

令和4年9月15日発行 鷹山宇一記念美術館友の会

〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内 67-94 七戸町立鷹山宇一記念美術館内

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860 e-mail info@takayamamuseum.jp http://www.takayamamuseum.jp/



▲鷹山宇一「たそがれ」制作年不詳 木版画

版画を志したふたり

明治以来の近代化志向路線に沿って、日本洋画界にも西洋の新傾向の作風が次から次へともたらされた。美術家たちは大いに刺激と影響を受け、これらを自分のものにしてようと試行を繰り返したにちがいない。念願の上京を果たした3年後、22才の青年・鷹山宇一の1930(昭和5)年は、たった1年の間にフォーヴィスム、シュルレアリスム(昭和5)年は、たった1年の間にフォーヴィスム、シュルレアリスムの作品が混在し目まぐるしい。最終的にはシュルレアリスム、しかも「木版画」に落ち着くのであるが、気に入った刷り1点しか残さないといいもの。加えて戦後は油彩を専らとしていたから版画家時代は短く、遺された作品は稀少だ。そんな鷹山木版「たそがれ」は、おそらく1930年から1940年代、終戦以前の制作だろう。また、蝶をモチーフにした初見の作品とも言えるのかもしれない。蝶の後方には木の葉っぱみたいな虫がいる。コノハムシだろうか？まるで舞い去る蝶を追うかのように前足を大きく広げ乗り出している。思いの強さゆえか、それは残像となって宙に放たれる。「あこがれ…」この作品を私は勝手にそう呼んでいた。でも、コノハムシへの思いはきつと届くことはないだろう。そして恐ろしいことに、あこがれと失望の連鎖は「永遠」に繰り返される…。やはり「たそがれ」と呼ぶのがふさわしいのかもしれない。

幻想画家、花と蝶の画家と称された鷹山であるが、最期の作品に至るまで、その構図や特に何も描き込まない「空」(余白)にシュルレアリストの目がしっかりと生きているのがわかる。ギリギリまで巧みに制御された「空」(余白)は、画面を引き締め全体を調和させる。そこに私たちは思い思いに想像を巡らし、絵画は詩となり物語となっていく。

戸村春樹もまた、研ぎ澄まされた黒の「空」(余白)に、清廉な緊迫した空気を漂わす。画家はこれをマニエル・ノワールⅡ黒の手法という銅版画で表した。一長期間にわたって精神的緊張感を持続しながら版に向かい、版上に刻んだ無数の点をつぶし、削り、また点を刻むという気の遠くなるような膨大な作業にも耐えなければならぬきわめて不自由な手法(※)と自ら銅版画について語っている。戸村の銅版画と鷹山の木版画とは手法も風合いも異なるが、二人の画家は緻密な計画と予測、繊細かつ煩雑な作業を必要とし、さらには制約が厳しく不自由な上ない「版画」の道を志した。なぜか？戸村は「そのことが心に映る光やかたちとともに、自身と目に見えないものとの限らない対話の時間をも、おのずと刻み込んでいくように思われる」(※)と述べている。

鷹山宇一という一人の画家を記念した美術館として、芸術性だけでなくその底流にある「人間の生き様」に触れる心の在り処でありたいと願う。生き苦しさを抱えながら、それでも生きて行くために、信念を持って己の道を行くために、この美術館が「光となればと念じつつ…」鷹山の言葉を胸に、「戸村春樹」展は11月13日まで開催中。

(※)はデリーー東北「私とモチーフ」黒の手法で祈りを「1999.6.6」より引用しました。

(副館長・大沢田亜希子)





## 黒の譜 戸村春樹展

〜かけがえのないもの〜

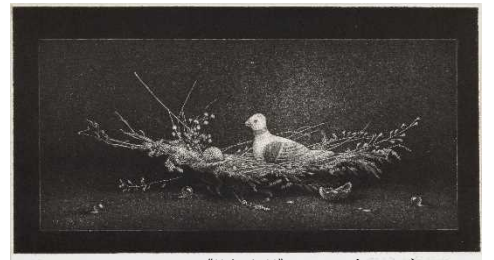
9月23日(金・祝)〜11月13日(日)まで「黒の譜 戸村春樹展」を開催いたします。

戸村春樹(1947年〜2016年・八戸市生まれ)は青森県立八戸高校卒業後、多摩美術大学に入学、在学中に独立美術展に油彩画で計3回入選。昭和48年に同大学院美術研究科(油彩)を修了。その後、鎌倉や東京都内で美術講師を務め、本県に帰省後は県立青森高校、青森第三養護学校高等部に勤務。青森第三養護学校のころ、教材研究として取り寄せたメゾチントプレートとの出会いがきっかけとなり、メゾチントを主とした制作に取り組みようになります。

「メゾチント」とはフランス語で「マニエル・ノワール」と呼ばれる銅版画の技法のひとつで、銅などの金属板に縦、横、斜にルーレットのような道具で無数の点をうち、そこにインクをつめこみ、プ



《野の譜》1986年メゾチント



《題不明》1984年メゾチント

レス機で圧力を加え、紙に移し取る技法で、まるでピロロドのような深みをおびた美しい黒の肌合いが特徴です。戸村のメゾチント作品は、漆黒の空間に

山々や雲、植物などをモチーフに、緊張感に満ちあふれた静寂の世界が描かれており、ロッズ国際小版画ビエンナーレなど、その格調高い作品は国内外の展覧会に多数入選しています。

本展は、芸術家・戸村春樹の美術館における初の回顧展となります。メゾチントを中心にパステルや鉛筆などによる作品

も紹介し、戸村芸術の特質と本質、さらにはその底流にある人間・戸村春樹に迫ります。

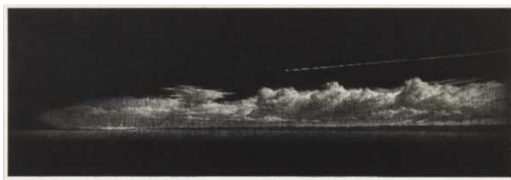


《沈黙の譜》ドローイング

## 展示作品から

戸村は日常に潜む「かけがえのないもの」を銅板に刻み続けました。身近な草花や風景、生活する中で出会う一瞬の感動を忘れないようにと、日記を綴るかのように作品に残しています。戸村の代表作に「時」と「大地」をテーマにした一連の作品があります。漆黒の中から白い光となつて浮かび上がる大地、雲、街は無限の広がりを感じさせます。

白と黒の対比が美しいメゾチント。是非会場で、戸村春樹のメゾチントの世界に浸っていただけましたら幸いです。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



《時3》メゾチント



《大地 88-2》メゾチント

## 橋本尚恣氏 講演会

10月23日に県内外で活躍する版画家・橋本尚恣さんをお迎えして講演会を開催します。橋本さんは主にドライポイントによるモノプリント版画を制作しています。講演会では銅版画について実演を交えてお話していただきます。詳細は美術館までお問い合わせください。

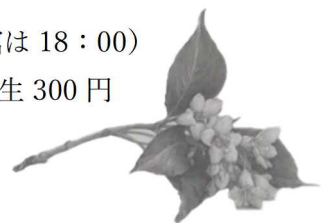
## 「黒の譜 戸村春樹展 〜かけがえのないもの〜」

【会期】9月23日(金・祝)〜11月13日(日)

※毎週月曜休館 但し10月10日は開館、翌日休館

【入館時間】10:00〜17:30(閉館は18:00)

【入館料】一般800円、高校・大学生300円  
小・中学生無料



# 青森放送開局70周年記念「GOMA展」閉幕

青森放送開局70周年記念「GOMA展」が無事に終了しました。連日多くのお客さまが来館し、総入館者数は何と4万2750人！開館以来の入館者数となりました。



多くの方にアーティストGOMAの世界を存分にお楽しみいただきました。ありがとうございました。

7月15日(金)

## テープカットセレモニー・内覧会



↑300時間かけて制作した作品「universe」の前でGOMAさんが展覧会への意気込みを語りました。

## イベント盛りだくさん！

### GOMAさんによるギャラリートーク&サイン会



↑ギャラリートークの様子。GOMAさんの楽しいトークにお客様も聞き入っていました。

初日から3日間連続でGOMAさんによるギャラリートークとサイン会を開催しました。

### GOMAさんと素焼きペイントワークショップ



由に絵を描くワークショップです。

素焼きの「ムーンモンスター」(GOMAさんオリジナルキャラクター)にマジックペンをを使って自由に絵を描くワークショップです。

### 図録発売記念サイン会



↑展覧会図録の発売記念にサイン会が開催され、多くのお客さまが集まりました。

### 11日間連続ライブアート！



展覧会を締めくくる最後のイベントとしてライブアートを開催しました。

真っ白な壁に下書き一切なしで描いていきます。訪れたお客様は、迷いなくペンを走らせ緻密な絵次々と描いていくGOMAさんの姿に釘付けでした。

## 入場者4万人突破！

4万目のお客様になったのは七戸町の成田さんご家族で。GOMAさんから記念品の展覧会図録が贈呈されました。これまで当館で開催された企画展の中で最も多い入場者数となり、



沢山の来館ありがとうございました！



期間中、大人気だったGOMAねぶた



令和4年度

# 美術館あーとくらぶ



8月23日・30日に七戸南公民館で行った、公民館講座「クレパスアート」の様子をご紹介します。

クレパスを使用して、スクラッチという技法に挑戦しました。



## 【スクラッチ】技法

絵画の技法のひとつ。あらかじめ下塗りした色の上に違う色を塗り重ね、塗り重ねた色をひっかくと下の層の色が出てくるといふ技法。

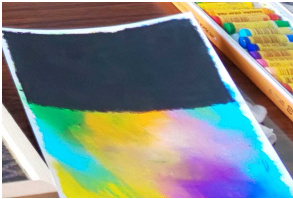
下の層はクレヨンを主に用いて黒以外の色を塗る。  
上の層は黒のクレヨンもしくはアクリル絵の具を使用。  
※あーとくらぶではクレパスを使用しています。



【工程】①画用紙に黒以外の色をのせる。画用紙の白が見えなくなる位厚く塗る。②指で均等になるように擦る。ここで、色が画用紙に定着するようにスプレーを吹きかける。③黒のクレパスを塗った色が見えなくなるまで塗りつぶし、指で擦りなめらかな表面に仕上げる。④竹串などで削る。

(ひっかく)。削ることによって下の層の色が出てくる。  
※工程はあーとくらぶ独自のものです。

1日目は、スクラッチがどのようなものか、知ってもらったための練習です。絵を描くというより、削って偶然出た色を楽しむ！ことが目標です。そのため、図案はこちららで提供。鷹山宇一の作品に登場する蝶を選びました。



公民館講座に参加ください  
ました皆さま。楽しい時間を  
ありがとうございました。



2日目は図案を自分で用意して完成を目指します。1日目の作品と比べて出来映えの良い方を額装し、額装した作品は、七戸町の秋の文化祭で展示される予定になっております。素敵な作品ができあがりしましたので、ぜひ展示をご鑑賞下さい。

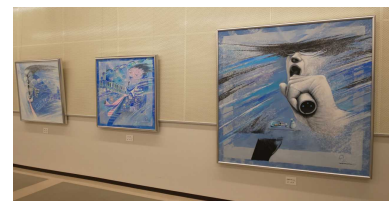
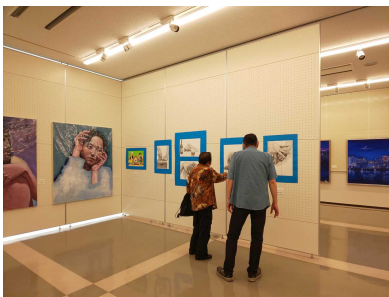
が見えてきます。これを目安に竹串で削って仕上げました。



を止めてしまいます。なぜなら、どうしても最後の削りに合わせて色を置こうと考えてしまうからです。そのため、今回は、次にどんなことをするかをあえて説明せず、ただ下塗りをしてもらいました。下塗りが終わり、上の層の黒を塗り重ねたら削り作業に入る。黒く塗った上に図案のついた紙を置き、蝶の輪郭を赤ボールペンでなぞる。紙を取ると上の層の黒い部分が剥がれて下地の色



## アトリエのぶ絵画教室作品展へ



9月2日(金)から9月4日(日)まで、十和田市民文化センターで開催されていた、アトリエのぶ絵画教室作品展を鑑賞してきました。絵画やデッサンなど、受講生の力作が約90点展示されていました。

実は、スクラッチもアトリエのぶの教室で受講していました。(そのときはクレヨンとアクリル絵の具でした)

少々バタバタしていた日常から解放されたひととき。とても有意義な時間を過ごすことができました。

## 令和4年度 美術館あーとくらぶ

毎年、美術館2F工房で開催している「あーとくらぶ」。今年度も活動に向けて準備中です！

- 11・12月 年賀状木版画教室(予定)
- 12月 七宝焼き①(予定)

止むなく中止する場合がございますので、HPでご確認いただくようお願いいたします。

1月以降の予定については次号でご案内いたします。

# 美術館日誌



## ◆ 7月 ◆

- 1日(金) 展示替え休館(7/15)
- ・ 展示替え休館(7/15)
- ・ 次年度事業打合せ
- (大沢田副館長・遠藤学芸員、東京・静岡出張、6/30~7/1)
- 9日(土) RABフジオ「サタデー横町」ラジカール中継でGOMA展取材
- 12日(火) 電気設備定期点検(佐藤電気)
- 15日(金) GOMA展内覧会&オープンングセレモニー開催
- ・ RABフジオ「GO!GO!丸」生放送へ織川出演(地域特派員)
- 16日(土) GOMA展初日(9/11)
- ・ GOMAさんによるギャラリー・トーク、サイン会を開催(18日)
- 20日(水) 七戸南公民館主催WS打合せ(課長補佐・大間氏、古屋敷氏、織川教育普及員)
- 21日(木) 戸村春樹展図録打合せ(長尾印刷・遠藤氏)
- 26日(火) GOMA展入場者5千人達成記念セレモニー開催
- 28日(木) 戸村春樹展図録初回入稿(図版)
- ◆ 8月 ◆
- 4日(木) 戸村春樹展資料調査

- (大沢田副館長・織川教育普及員、八戸市出張 県立八戸高等学校)
- 5日(金) 電気設備定期点検(佐藤電気)
- 9日(火) GOMA展入場者1万人達成記念セレモニー開催
- 10日(水) GOMA展図録販売記念サイン会を開催(11日)
- ・ 戸村春樹展図録2回目入稿
- 19日(金) 寄託資料返却作業(大沢田副館長・遠藤学芸員、青森市出張)
- 20日(土) GOMA展WS開催「GOMAさんと素焼きペイント」(2F工房、21日)
- 23日(火) GOMA展入場者2万人達成記念セレモニー開催
- ・ 博物館実習打合せ(弘前学院大学・井上博士)
- ・ 戸村春樹展作品額装打合せ(八戸彩画堂・松田店長)



▲テープカット  
GOMAさんは中央右の方です

ワークショップ▶  
素焼きのムーンモンスタースターにマッキーでペイント!

入館待ちの列▶  
最終日は、2,891人がご来館!



- ・ 七戸南公民館主催WS開催(南公民館・織川教育普及員)
- 24日(水) RABフジオ「絞ちゃんのおさんぽ日曜日」GOMA会場にて収録
- ・ 戸村春樹展図録3回目入稿
- 25日(木) 3D空間撮影打合せ(七戸町企画調整課・高谷部氏、地域おこし協力隊・YouTuber 高田氏)
- 29日(月) ランプ館3D空間撮影(企画調整課、YouTuber)
- 30日(火) GOMA展入場者2万5千人達成記念セレモニー開催
- ・ 七戸南公民館主催WS開催(南公民館・織川教育普及員)
- ・ 戸村春樹展図録4回目入稿
- 28日(木) 戸村春樹展図録4回目入稿

## ◆ 9月 ◆

- ・ 貸出中の鷹山絵画返却(長野・カンヴァス城山)
- 10日(土) GOMAさん「写真撮影会」を開催(11日)
- ・ GOMA展入場者4万人達成記念セレモニー開催
- ・ GOMA展最終日(会期中の入場者42,750人)
- 12日(月) 展示替え休館(22日)
- 13日(火) 電気設備定期点検(佐藤電気)
- 14日(水) 戸村春樹展図録校了
- 15日(木) トイレ水道工事(中野電気工業)
- ・ ミュージアムグッズ打合せ(くろちく・吉田氏)
- 20日(火) 戸村春樹展作品展示作業(青森スタジオ、21日)
- 22日(木) 次年度事業打合せ(オフィス渋谷・稲葉氏)
- 23日(金) 「黒の譜」戸村春樹展「かけがえのないもの」初日(11/13)
- 27日(火) 3D空間撮影打合せ(企画調整課、YouTuber、生涯学習課)
- 29日(木) 鷹山賞審査委員長・濱田進先生(来館)
- ・ 鷹山賞審査員会開催(濱田審査員長、小又町長、瀬川護云議長、附田教育長、30日)
- 9日(金) GOMA展入場者3万5千人達成記念セレモニー開催
- ・ 青森放送株 山本社長(来館)

- 1日(木) GOMAさん「ライブアート」を実施(スパイン民芸資料館ホール、9日)
- 2日(金) Adobe更新作業(ROOII・宮崎氏)
- 6日(火) GOMA展入場者3万人達成記念セレモニー開催
- ・ 鷹山宇一資料調査、一科展表敬訪問
- (次年度開催予定企画展視察(大沢田副館長、仙台平塚恵岳出張、8日)



# あでやかな羽「幻の一枚」

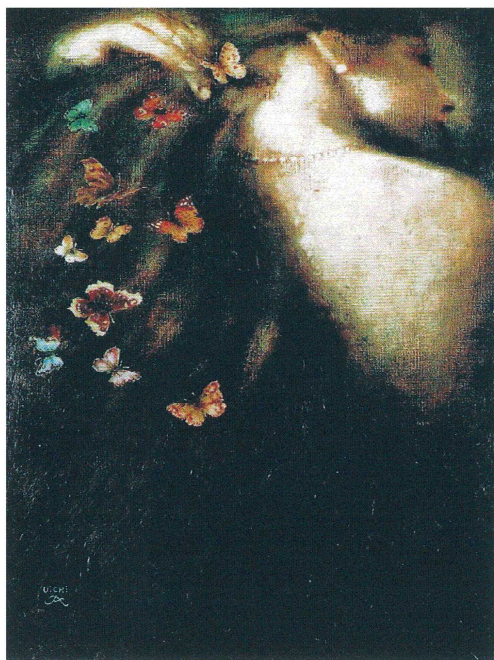
# 希少種緻密に描き分け

## 絵画の蝶を追って

鷹山宇一記念美術館作品から

### ⑨ クジャクチョウ

あでやかな長い黒髪をかき分ける女性の傍らに、11匹のチョウを使用している。言わなければウが舞う「黒髪」。直木賞作家「幻の一枚」なのだ。和田芳恵の「小説みだれ髪(光風社・1967年)の表紙にも使われた人気作の一つだ。ただ、作品の行方が知れず、今となっては制作年代、キャンバスの大きさも分かっていない。美術館には、資料に残されを鳥のクジャクになぞらえたதாக絵だけがあり、図録など



黒髪(制作年代不明)

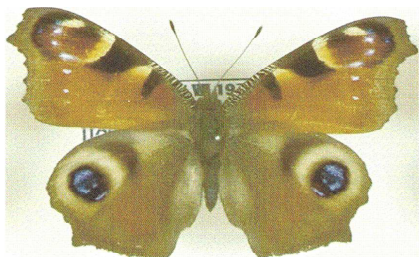
正式な学名は「Inachis io(イナシス イオ)」。

特徴的なのは、日本や東アジアに生息するものは亜種として扱われ、学名の後に「geisha(芸者)」が付く。

専門家から見ても、美しい羽の模様が、美人として認識されていたようだ。鷹山がチョウに精通していることを考えれば、このチョウの配置も意図的なだろう。

一度は直接見てみたいこの一枚。謎の女性たちの行方を捜すという天げさだが、作品の所在が気になるころだ。

(向中野一樹) ※毎週月曜日に掲載



クジャクチョウ

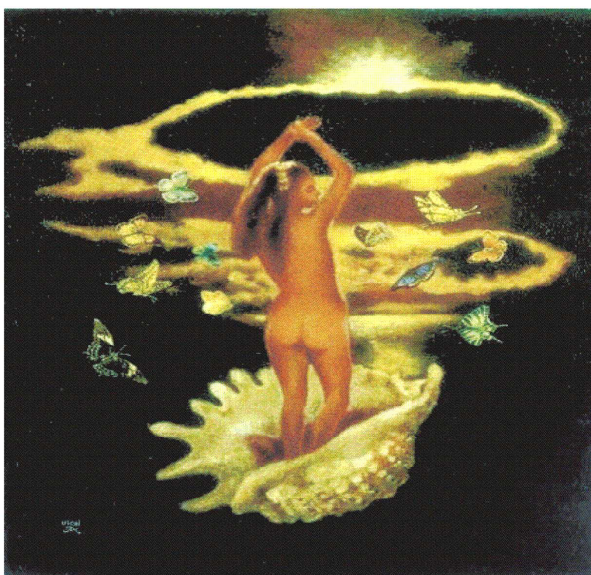
### ⑩ クモマツマキチョウ

## 絵画の蝶を追って

鷹山宇一記念美術館作品から

貝殻に乗り、甘美な雰囲気をもった女性と11匹の色とりどりのチョウが舞う「海の誕生」(1973年)。本作は、同年に東京の画廊で行われた「描かれた女展」に出展された。欧州の印象派の巨匠が描いた名画のイメージを模したと薄いとされた。鷹山作品の特徴の一つが、海外の希少種まで図鑑のように、緻密に描き分けられている。鷹山作品では、紛らわしくも捕獲が禁止されている希少種だ。

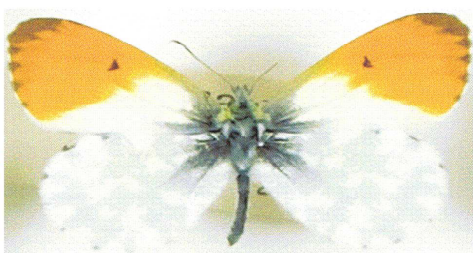
目般に乗り、甘美な雰囲気をもった女性と11匹の色とりどりのチョウが舞う「海の誕生」(1973年)。本作は、同年に東京の画廊で行われた「描かれた女展」に出展された。欧州の印象派の巨匠が描いた名画のイメージを模したと薄いとされた。鷹山作品の特徴の一つが、海外の希少種まで図鑑のように、緻密に描き分けられている。鷹山作品では、紛らわしくも捕獲が禁止されている希少種だ。



海の誕生(1973年)

鷹山作品では、紛らわしくも捕獲が禁止されている希少種だ。

色合いがよく似たツマキチョウも度々登場する。羽の先端部分に違いがあり、目を凝らすと描き分けがしっかりと分かる。鷹山作品の特徴の一つが、海外の希少種まで図鑑のように、緻密に描き分けられている。鷹山作品では、紛らわしくも捕獲が禁止されている希少種だ。



クモマツマキチョウ

(向中野一樹) ※この項終わり



# 宮沢賢治 ゆかりの地を訪ねて

八戸市 鮫町編

八戸市 照井壽一



JR東日本八戸線鮫駅全景  
1924年開業。青森県最東端の有人駅。  
サメのモニュメントが設置されています。

岩手県出身の宮沢賢治（詩人・童話作家）が1926年（大正15年）に三泊三日の旅をしたという鮫町を散策しました。

年表によれば、ときに賢治30歳の同年3月31日に県立花巻農学校を依願退職して、花巻町下根子桜の別邸で独居自炊の生活を始めた年の八月に妹シゲ、その長男で数え年2歳の純蔵、そして当時女学生だった末妹クニを連れだつた旅行だったそうです。

三日間の滞在でしたが、当時離島だった蕪島に船で渡りウミネコを見物したり、海水浴や海辺を散策



2015年11月5日未明に全焼した蕪島神社ですが、2016年11月に再建工事が始まり約5年の歳月をかけ2020年2月に工事完了。ウミネコの繁殖期である4月から8月は工事を休止したそうです。

するなど幼子と二人の妹達と一緒に楽しい旅行は心に残ったこととされています。

賢治は、この旅行の印象をもとに後年文語詩「八戸」を作っています。また、童話「ボラーノの広場」に設定されている「あのイーハトーヴォの岩礁の多い綺麗な海岸」、イーハトーヴォ海岸の一番北のサーモの町」は、種差海岸を含めた鮫をモデルにしているそうです。

花巻市の宮沢賢治記念館、童話村等は訪問しましたが同市桜町にある高村光太郎の書による「雨ニモマケズ」の石碑（1936年11月建立）はまだ見ていないので、機会を得て訪問したいと思っています。

参考文献等  
・「宮沢賢治 文語詩の森」第三集 編集 宮沢賢治研究会、「宮沢賢治」発行所 宮沢賢治記念会、その他

## 新規会員入会お誘いのお願いと

### 友の会会員登録更新のお願い

平素から会員の皆様には、友の会運営に多大なご理解とご協力をいただき、誠に有り難う御座います。

友の会では、鷹山宇一記念美術館の応援と会員の皆様に喜んで頂ける研修旅行、講演会等を企画し、微力ながら地域文化の発展に寄与していく所存でございます。

尚、更新及び新規入会手続きは、美術館窓口と同封の郵便振替等により随時行っております。

#### ○友の会の事業内容

- ①県内外美術館研修視察旅行(年2〜3回)
- ②海外美術館研修旅行
- ③美術館作品購入基金への協力
- ④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
- ⑤会報の発行
- ⑥その他(美術講演会の開催等)

#### ○一般会員

年会費 3千円  
特典 ①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引

#### ○特別会員

年会費 1万円  
特典 ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館

#### ○賛助会員

年会費 2万円  
特典 ①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

## ☆ 会費納入について

美術館窓口、郵便振替に加え下記口座からも納入出来るようになりましたので活用下さい。

○銀行名 青森銀行 七戸支店  
○口座番号 307337  
○口座名義 鷹山宇一記念美術館友の会 会長 下山恭美子

## 編集後記

皆様からの研修旅行記等を頂き会報第108号完成。感謝。

なお、第104号から連続5回にわたって掲載した「愛読いただいた」の絵画の蝶を追って、今号が最終回です。

デリーー東北新聞社様のご協力に心よりお礼申し上げます。

難う御座います。

(照井壽一)